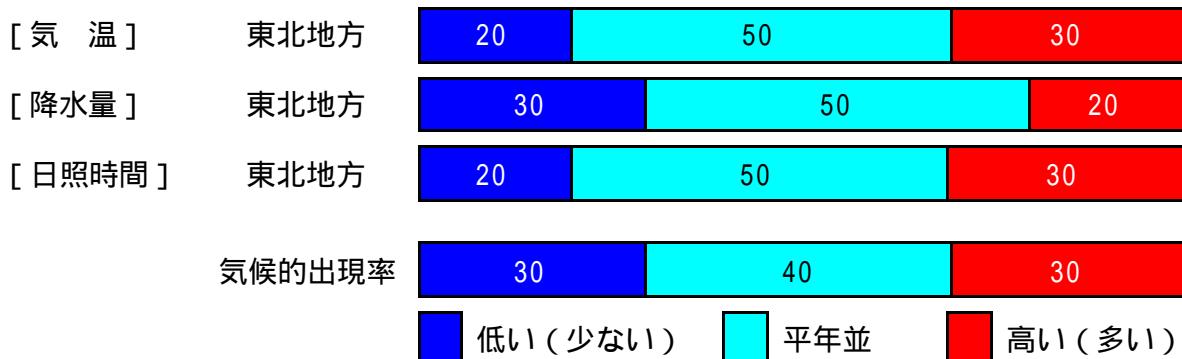


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間 : 7 月 17 日 ~ 8 月 16 日)

平成 11 年 7 月 16 日 仙台管区気象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 50% です。次に大きい確率は「高い」で 30% です。「低い」確率は 20% と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で 30% です。「多い」確率は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で 30% です。「少ない」確率は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴 (もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

東北地方では、期間のはじめは気圧の谷の影響で、平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。その後は太平洋高気圧に覆われ平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は「平年並」でしょう。(平年の晴れ日数は約 15 日です。)

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間の中頃まで気圧の谷の影響で曇りの日が多く、雨や雷雨となる所がある (7 月 17 日 ~ 7 月 23 日) でしょう。期間の終わり頃は日本海側では曇る日が多いですが、太平洋側では高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

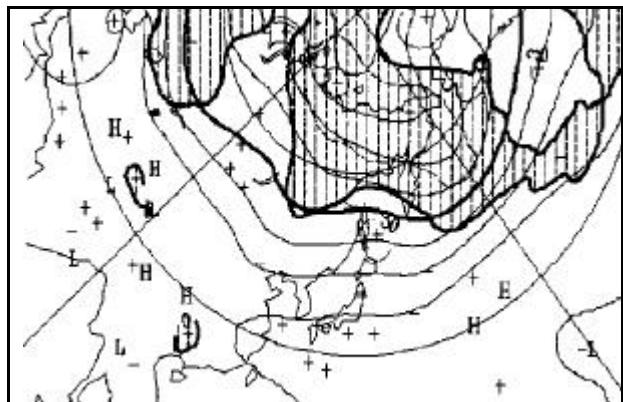
(平年の晴れ日数は約 3 日です。詳細は週間天気予報を参照して下さい。)

2 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ平年同様晴れの日が多いですが、大気の状態は不安 (7 月 24 日 ~ 7 月 30 日) 定でしょう。

平均気温は平年並の見込みです。(平年の晴れ日数は約 4 日です。)

3~4 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ、平年同様晴れの日が多いでしょう。
(7 月 31 日 ~ 8 月 13 日) 平均気温は平年並の見込みです。(平年の晴れ日数は約 8 日です。)

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

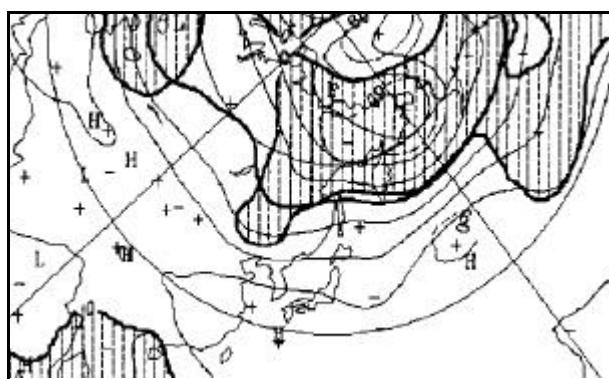


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 每、偏差: 30m 每、陰影部: 負偏差)

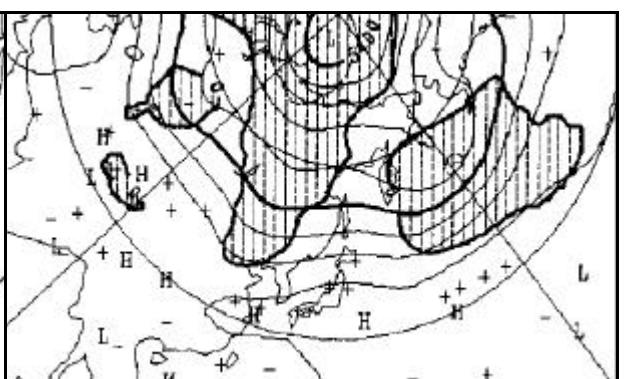
・500hPa 高度・偏差

月平均、2週目、3~4週目とも、日本付近は広く正偏差に覆われている。

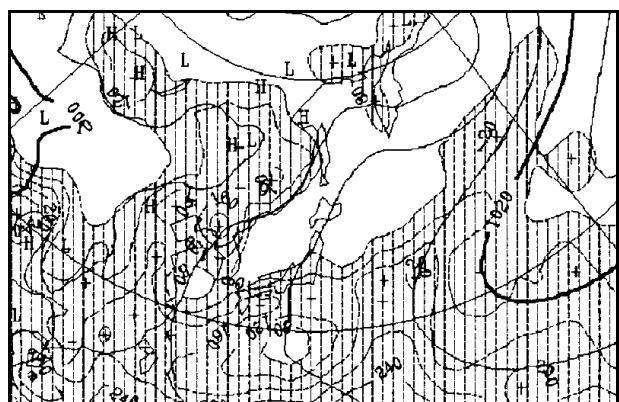
夏型の安定した晴天をもたらす太平洋高気圧は、月平均で見ると関東以西から中国大陸東岸に張り出す予想。2週目もほぼ同様の状態だが、3~4週目は北に勢力を広げる予想。東北地方は、前半はやや大気の状態が不安定だが、次第に太平洋高気圧の勢力が強まり安定していく。



2週目の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 每、偏差: 60m 每、陰影部: 負偏差)



3~4週目の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 每、偏差: 60m 每、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa 每、降水量: 40mm 每、陰影部: 80mm 以上)

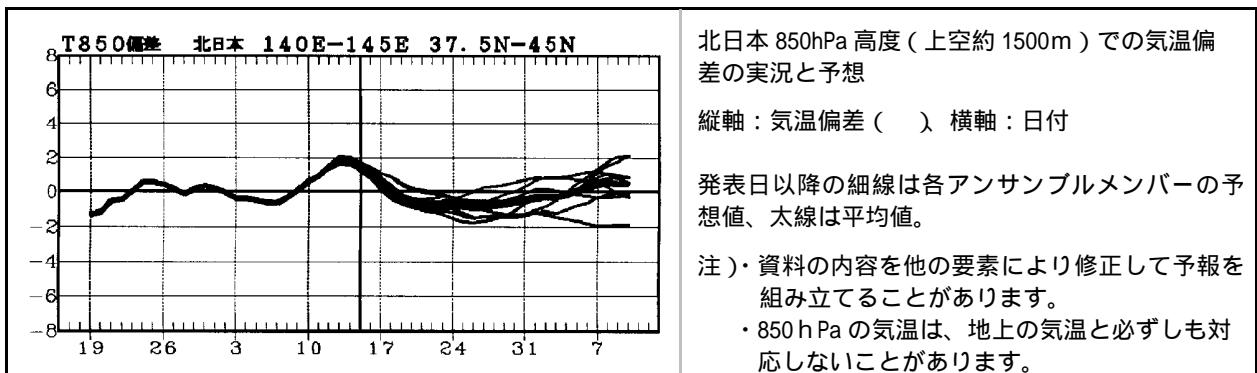
・地上気圧と降水量

月平均では、太平洋高気圧が東海上から日本付近に張り出している。日本付近には、本州南岸沿いに細長く降水域が広がっているが、1週目（図略）の熱帯擾乱による寄与が大きい。2週目以降（図略）の地上の降水量は、日本付近でまとまったものは見られない。

太平洋高気圧の張り出しの軸は、2週目は日本の南海上だが、3~4週目は本州の南岸付近となり、次第に勢力が強まってくる。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

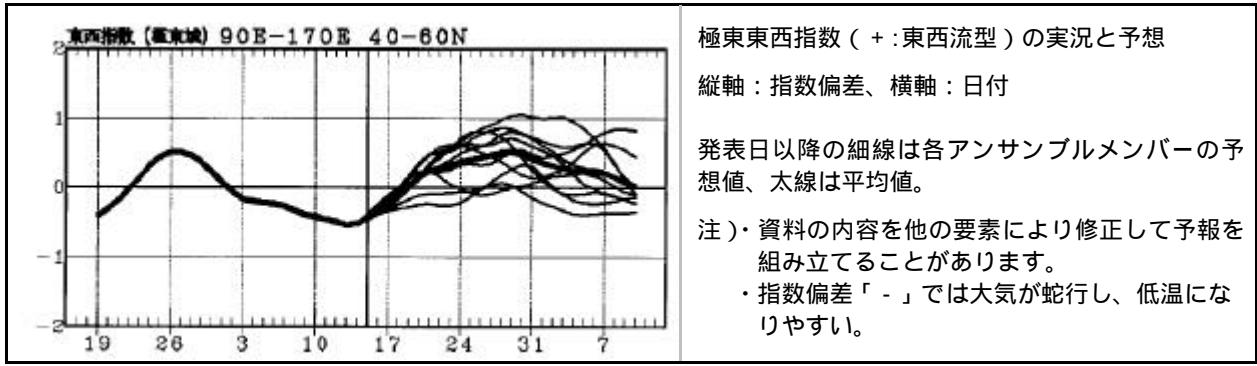
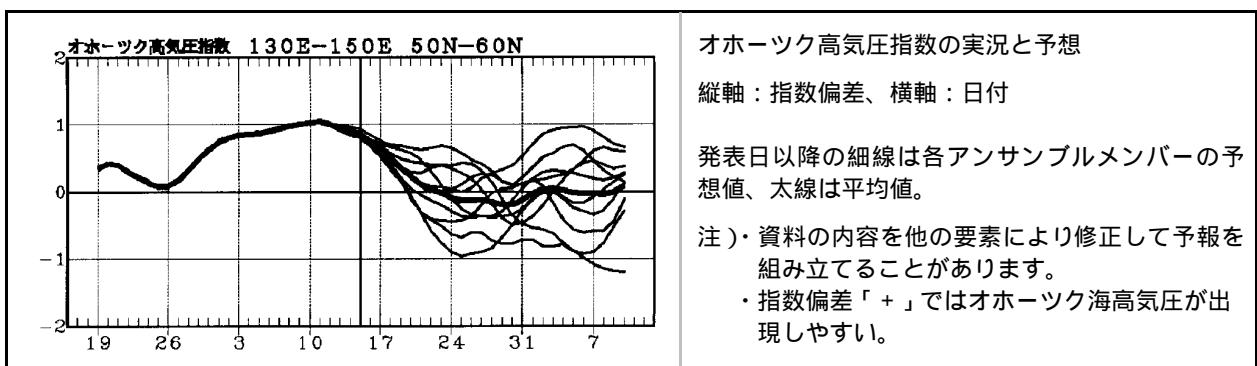
北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると期間を通してほぼ平年並が予想される。バラツキも小さく、信頼度は高い。



注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. その他

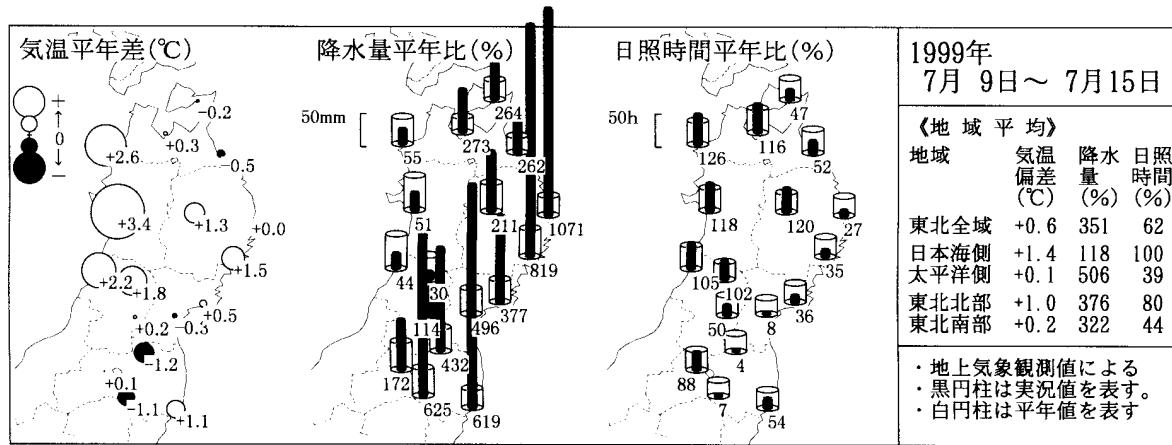
オホーツク高気圧指数は現在高い状態。今後は、アンサンブルメンバーの平均でみると1週目後半には平年並になり、その後ほぼ平年並が予想される。また、東西指数は、アンサンブル平均すると概ね正偏差が予想される。この時期の著しい低温はオホーツク海高度が高く、東西指数が負偏差の場合に多く発生するが、予想図からはこの期間著しい低温になる可能性は小さい。



5. 最近1週間(7月9日~7月15日)の天候の経過

9日は、北に偏った高気圧の影響で太平洋側では曇りとなったが、日本海側では晴れた。10~11日は日本海側北部では概ね晴れたが、その他の地方では低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。その後の12~15日も日本の南海上に発生した弱い熱帯低気圧がゆっくり北上したため、全般に雨となり、太平洋側では大雨となった。

気温は日本海側では平年を上回り、太平洋側ではほぼ平年並。降水量は、平年を上回り、特に太平洋側では大きく平年を上回った。日照時間は日本海側ではほぼ平年並、太平洋側では平年を下回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

6. 参考資料

梅雨入り・明けの時期

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6月7日頃	6月12日頃	6月3日頃	7月23日頃	特定しない
東北北部	6月7日頃	6月14日頃	6月3日頃	7月26日頃	特定しない